

下口紘輝／安藤裕一組がDE4.5の接戦を制して2勝目



SS1で総合2番手タイムを叩き出し、序盤から上坂英正／鈴木和人組にプレッシャーをかけた下口紘輝／安藤裕一組が今季2勝目。

全

6戦でシリーズチャンピオンを決めるJAF中部・近畿ラリー選手権。3戦目となる「いなべ東近江ラリー2018」が6月23～24日に、三重県いなべ市を拠点として開催された。

このラリーは三重県内で開催されていたが、今回から隣接する滋賀県東近江市にもまたがって、新たな林道ステージとラリーパークを用意。新たな取り組みによって、ラリーの規模を拡大しようとする主催者の努力が続いている。

もちろん地元であるいなべ市のバックアップも大きく、スタート会場となった大安公民館には様々なブースが出展。隣接ステージが観戦できるとあって、多くの地域住民が集まった。

ラリーは9本のステージが用意され、36台がエントリー。土曜に行われたセレモニアルスタートやシェイクダウンにも大勢の観客が詰めかけ、賑やかな雰囲気で行われた。

今回最多の15台で争われたDE4.5では、開幕戦で優勝した下口紘輝／安藤裕一組と第2戦ウィナー上坂英正／鈴木和人組が序盤から秒差の争いで一騎打ちの様相となった。

しかし、SS3でタイムを落とした上坂／鈴木組は得意のSS5で挽回しようと頑張りすぎたのか、コースアウトでリタイアとなってしまう。

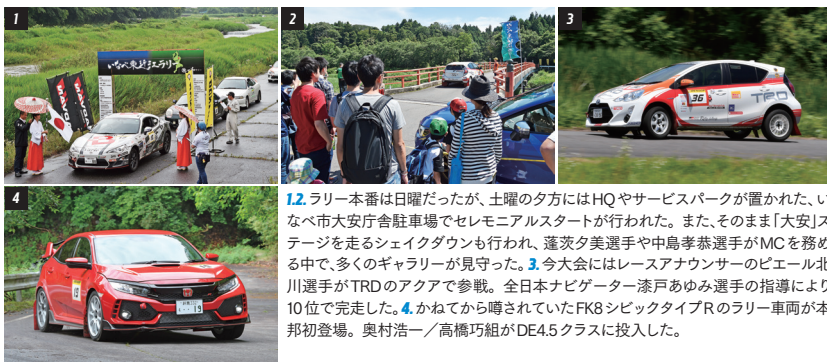
これで楽になったのは下口／安藤組だ。2番手に浮上してきた松村智／谷内壽隆組のタイムを見ながら、下口／安藤組が、最後は余裕を持った走りで見事に優勝。今季2勝目を挙げた。

下口選手は「完走ペースではありましたが最後は松村選手が迫ってきていたので気を抜かず走りました」と語る。2位の松村選手は「石樽峠で2本のベストを獲ったので「西マイスター」

と呼んでください(笑)。クラッチトラブルもあったので2位は上出来です」と喜んでいて。

3位争いをSS8で制して逃げ切った板本敬二／鹿村利明組が3位に入った。最後まで追いつけたが、3位には1秒届かなかった宮前信彌／山村浩三組が4位。SS7まで3番手だった斎藤伸司／中村慶和組は5位に落ちた。

7台で争われたDE6は、全日本ラリー JN5で活躍する横嶋良選手が借り物マシンで初出場。なんでも、横嶋選手の会社が地元・三重県にあり、社内を含めてラリーを広めるため、後



1,2 ラリー本番は日曜だったが、土曜の夕方にはHQやサービスパークが置かれた、いなべ市大安庁舎駐車場でセレモニアルスタートが行われた。また、そのまま「大安」ステージを走るシェイクダウンも行われ、蓮次美選手や中島孝恭選手がMCを務める中で、多くのギャラリーが見守った。3 今大会にはレースアナウンサーのビエール北川選手がTRDのアクアで参戦。全日本ナビゲーター漆戸あゆみ選手の指導により10位で完走した。4 かねてから噂されていたFK8シビックタイプRのラリー車両が本邦初登場。奥村浩一／高橋巧組がDE4.5クラスに投入した。



5.SS6とSS9で約2秒差のベストを叩き出した松村智／谷内壽隆組がDE4.5の2位。シリーズ3位をキープ。6.DE4.5の3位争いは超激戦。安定したタイムで3位を獲得したのは板本敬二／鹿肝利明組。7.DE4.5宮前信彌／山村浩三組は1秒差で4位に。8.DE4.5の5位は齋藤伸司／中村慶和組。SS8の遅れが悔やまれる。9.DE4.5の6位はEK9シビックを駆る高木充／藤井俊樹組。10.11.序盤の3ステージで大きく稼いだ西村好正／松井弘成組がDE3優勝。12.DE3の2位は全日本にも挑戦する加藤英祐／塩田卓史組。13.DE3の3位はヴィッツマイスター野村長／鈴木真由美組。14.DE3の4位は徳能大輔／長澤奨平組。15.DE3の5位は坂井智幸／夷藤新基組。16.DE3の6位は村上男彦／森岡元組。SS5とSS7では3番手タイムをマークした。17.全ステージベストのブツぎりで優勝したのはDE6横嶋良／友廣佑介組。18.序盤で遅れた豊田信寿／千崎浩一組が後半で取り返してDE6の2位。19.DE6の3位は、ショートステージでペースを掴めなかった蒲生裕一／前田健吾組。

輩をコドライバーに擁して参戦してきたという。

ラリーでは全ステージでベストタイムを叩き出して優勝。横嶋選手は「ダート用のアシだったので曲がってくれないクルマでしたが、何とか勝てて良かったです」と語り、コドラの友廣佑介選手は「初ラリーでしたが、落ち着いてノートも読めたので楽しかったです。初出場で初優勝はドライバーに感謝です」と笑顔だった。

2位は開幕戦優勝の豊田伸寿／千崎浩一組。「前日まで雨だったので、前半はウェット寄りのタイヤ選択でした。それが裏目に出ましたが、後半ではタイヤを換えて追い上げられたので、2位に入ることができました」と悔しがる。

最後まで目が離せなかったのが3位争い。SS7までは第2戦優勝の林正嗣／白崎清之組が蒲生裕一／前田健吾組を0.9秒抑えて3番手を守っていたが、SS8で蒲生／前田組が逆転。最終ステージもセカンドベストで3位を死守した。「最後は死ぬ気で踏みました。地元のラリーで3位に入れたのは嬉しいですが、走りとしては不満が残るラリーでした」と悔やんでいた。

13台で争われたDE3は2連勝している西村好正／松井弘成組が、2位加藤英祐／塩田卓史組に約10秒の差を付けて3連勝を飾った。「今回は先行逃げ切りができたので、3連勝はラッキーです。ウェット寄りのタイヤだったので後半ではタレてきてましたから。次は4連勝を目指します」と喜んでた。

2位の加藤選手は「残念な2位です。西村選手とは差が詰まって来てると思いますので、次こそは！と思ってます」と闘志を燃やしていた。

3位は「SS1でのセッティングミスが悔やまれます。それ以降はタイヤのエア調整でうまく走れるようになりましたが、10秒差は大きかった」と語るベテランの野村長／鈴木真由美組。

4位はかつてハイパー4駆に乗っていた

徳能大輔／長澤奨平組。「このクルマはまだ手探り状態なんですけど、やっと課題の答えが見つかった気がします。次につながる4位です」と明るい表情を見せていた。

中部チャレンジシリーズとして組み込まれたチャレンジクラスには5台が参加。今回優勝した石井元紀／村木花奈江組は、デビュー戦となった第2戦MASCラリーから2連勝を飾り、早くもチャンピオンを確定させている。

さて、ラリー初参戦となったピエール北川選手は、全日本ラリーで大活躍する漆戸あゆみ選手をナビゲーターに擁して、アクアで堂々のラリーデビューを果たした。JMRC中部のラリーセミナー受講の甲斐あって見事に完走。ラリーの難しさと楽しさを思い切り堪能していた。



20.選手権クラスのアイテナリーの前半4ステージだけで争われたチャレンジシリーズ。優勝は、SS2でトラブルが発生しながらも、3本のステージベストで取り返した石井元紀／村木花奈江組。21.SS2ではステージベストをマークした多田稜平／塩谷賢組が2位。22.3位は木下広紀／西川直治組。23.チャレンジシリーズ上位3クルーの皆さん。



24.DE6表彰。優勝の横嶋／友廣組、2位豊田／千崎組、3位蒲生／前田組。25.DE6の4位は林正嗣／白崎清之組、5位は上林勇／森博則組。26.DE4.5表彰。優勝の下口／安藤組、2位松村／谷内組、3位板本／鹿肝組。27.DE4.5の4位は宮前／山村組、5位は齋藤／中村組、6位は高木／藤井組。28.DE3表彰。優勝の西村／松井組、2位加藤／塩田組。3位野村／鈴木組。29.DE3の4位は徳能／長澤組、5位は坂井／夷藤組、6位は村上／森岡組。